

東大を卒業してエリートと呼ばれる生活をしている人は、10代に少年・青年らしい生活をしていたでしょうか？ 僕の顧問弁護士は東大在学中に司法試験に合格して、41歳で5人の弁護士を雇って丸の内の事務所です。彼は「受験勉強中は自慰行為すらも我慢して勉強に励んできたのだから、エロでたまにたまだったがりさんには負けたくない」のだそうです。いつからそんなエリートにライバル心を持たれるような人間になったのかには興味ありませんが、専門学校を卒業して佐川急便をしてテリー・伊藤さんの奴隷時代の4～5年は風俗には通ってました。まさに寝食を忘れるような修行と呼べる生活でした。野菜の品種で言えば、早生と晩生の違いであって、どちらも成長期に試練と呼べる栄養をキッチリと摂取することが肝心だったようです。

人間の成長期とは、それぞれ各自が「今が人生の勝負どころ」と確信できる時期のことではないでしょうか。その確信がなければ、どんなに努力家であってもできないような努力を、努力家でない僕のような怠けものでも確信があったのできたようです。そして今年、国立ファームの社員たちにとっての、人生の勝負どころが来てしまいました。

チャンスや幸運の女神といったものは、都合よく来てくれません。大抵は準備中に来てしまうものです。国立ファームも万全の準備が出来る前に追い風が突風のように吹き始めてきました。風が吹き始める前に4年間も準備期間があったのに、追い風を経験したことのない若い社員たちには追い風の存在すらも理解していなかったようで、追い風を受けるための翼が未完成のままです。

しかし、数カ月前に発生した熱帯低気圧は台風に変化して、国立ファームに上陸することは社員の誰の目にも確実になってきました。今までは社員に失敗しながら学ばせるために、各自の判断に任せて参りましたが、1カ月ほど前に、非常事態宣言を発令しました。全判断を社長である僕が下すため、毎日の報告であらゆる案件を逐一報告させ、全て僕の指示通りに動く中央集権的なシステムに改悪してしまいました。

で、どんな台風が来たのか？ 1号が飲食企業から農家の台所フランチャイズのオフアー、2号が青果仲卸から国立ファームが取り扱う野菜卸のオフアー、3号が百貨店から食料品売り場テナント出店のオフアーです。どの台風も良い条件をいただいており、断わる理由がありません。台風1号は今流行りの野菜レスト

ランを渋谷に出店計画していた企業様が人気レストランをリサーチしたところ、農家の台所の野菜が群を抜いて美味しかったということで、真似をしても勝てないと判断して、FC契約をしたとお話を頂きました。FC1号の広島店と直営5号店の銀座店と合わせて年内3店舗の出店を予定しています。台風2号は既存のレストランチェーン数社から同時に「野菜で差別化をしたい」と注文を受けた仲卸様から、市場品では無理なので、とお話をいただきました。台風3号は電鉄系百貨店様から1年で八百屋3店舗をテナント出店して欲しいとのこと。今までは卸しだけでしたので、始めて八百屋の小城を築けそうです。

取引先の篤農家さんたちから分けてもらった野菜はやはり特別な価値のある商品でした。それに消費者が気付き、飲食店や小売店が追いかけて始めたようです。今まで人生の中で他人様に期待されることのなかった社員たちには、多分最初で最後の、人生の勝負どころが舞い込んできたんです。ここで勝てれば将来は企業の創業メンバーとして社長・取締役といった想像もできなかったポストが手に入ります。さあ、社員諸君、覚悟を決めて、突然立たされた舞台上でビビることなく大暴れして下さい。

# 国立ファーム株式会社

## 高橋がなりの

# アグリのオサダ

～早く「虎」に変わるんだ！～

第42回  
全社員に勅令「ここから1～2年は人間らしい生活を諦めろ！」